

令和3年度 関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務
業務実施報告書

団体名	株式会社シーズ総合政策研究所
事業名	<つながりダイバーシティ 2.0> ー自走支援*横展開支援による多様性を受容するアクティブな関係人口創出プラットフォームー

1 事業概要・主な成果

1.1 事業概要

(1) ビジョン設定と基本方向

本事業では、R2年度に採択を受け実施した「しまね発つながりダイバーシティ」の成果とそこから見えてきた課題を踏まえ、【<つながりダイバーシティ 2.0>「(R2 成果) 関係人口拡大・創出プラットフォーム」を活かした自走支援*横展開でさらなる関わりの深化と広がりをつくります。】として取組んだ。その上で、事業の基本方向を、「i 先駆的なモデル事業の実施とモデルの横展開」「ii. 自走の条件となるマネタイズと地域側の運営体制の充実支援」を設定し、事業成果の深耕と拡大を図ることをめざした。

(2) 先駆的なモデル事業の実施とモデルの横展開

【地域】においては、令和2年度に取組んだ関係人口創出の仕組みの活用を図る横展開モデルを、島根県浜田市、富山県魚津市において展開した。その上で、【連携】として3市の関係人口づくりを担うコーディネーター人材(関係案内人)の育成を図った。また、【大都市】向けに「かかわりシロチャンネル」視聴者を対象としたオンラインでのつながりイベントを開催した。

(3) 自走の条件となるマネタイズと地域側の運営体制の充実支援

【地域】においては、関係人口を活動人口へと巻き込みを図る段階にある地域として、令和2年度にフィールドトライアルを実施した島根県江津市有福温泉エリアを設定した。【地域】の有福温泉エリアで現地プレイヤーと【大都市】の関係人口との協働による取り組みを実施し、その取り組みをオンライン講座で学びを深めた。【連携】としてネットワーク会議を開催し、関係人口拡大・創出について事業を通して得た知見を共有した。

1.2 主な成果

(1) 関係人口層へのアプローチと効果の提示

- 令和2年度にスタートした「かかわりシロチャンネル」を継続して関わり方とその面白さを提示することができた。
- さらに、オンラインイベントを通して地域へ起こった変化やプレイヤーからの呼びかけを行い、関わることの楽しさを多様な視点から提示することができた。

(2) 先駆的なモデル事業の実施とモデルの横展開における成果

- 令和2年度に取組んだ関係人口スタートアップ型のモデルを島根県浜田市に展開することにより、同市への関係人口への理解を深めることができた。
- 浜田市でのトライアルでは、地域の出身者やルーツを持つ層を「思い出」から応援・サポートする「関係人口」として捉え直すことができた。
- 同じく、スタートアップ型モデルを富山県魚津市に展開することにより、県を超えてモデルを展開することができた。
- 都市側の関係案内人育成として「ツナギビト講座」を実施し、関係人口が多様な地域と関わり、横展開していくための養成を行うことができた。

(3) 自走の条件となるマネタイズと地域側の運営体制の充実支援における成果

- 令和 2 年度には、オンラインフィールドトライアルを通して「地域を知り、かかわりプランを提案」したが、今年度はその「かかわりプランを実践する」という段階へ進むことができた。
- また、アイデアが実践へと進化することを関係人口も地域も実感することができ、今後の継続的なつながりと関わり意欲を高めることができた。
- 関係人口が現地を訪れなくても、オンラインを通して現地との関わりプラン（提案）を実践することができた。
- 本事業においては、収益事業としては実施していないが、書籍寄贈やボランティアといった経済価値以外の提供を行うことができた。今後、関係人口側・地域側双方からマネタイズ可能なコンテンツとしての可能性を試みることができた。（事業の性質上、本事業における有料講座は本事業では実施せず、地域の運営団体と関係人口とで直接実施した。）
- 対象とする関係人口を、昨年度から関わっている人や「しまコトアカデミーOBOG」を主な対象者としたことから、プランから実践への取組みがスムーズに行われた。

2 モデル事業実施地域の概要と課題

2.1 事業実施地域の概要・課題

(1) 島根県浜田市

■地域の概要

浜田市は平成 17 年、5 市町村が合併して誕生した。県西部の日本海を望む位置にあり、東は江津市、邑南町、西は益田市、南は広島県に隣接している。市内には高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館等の教育文化施設が充実しており、島根県西部の中核都市を形成している。一方、人口は 52,918 人、高齢化率 36.83 % (令和 2 年) となっており、特に中山間地域においては人口減少に歯止めがかからず、高齢化率は 50% を超える地区も少なくなく、将来にわたっての地域力の減退が懸念されている。

■地域の課題

浜田市では、旧市町村を 5 つの自治区として制度化し、地域特性に応じたまちづくりを進めてきたが、R3 年 4 月より、「浜田市協働のまちづくり推進条例」に基づき、自治区制度に代わる新たなまちづくりがスタートすることになった。新たな制度では、従来の公民館に地域振興機能を付加し、各地域の【人づくり】と【まちづくり】を柱とする「まちづくりセンター」が活動を開始している。

同市では、依然、人口や年齢別人口の地域間格差が解消されず、地域の担い手不足による地域コミュニティの機能低下が懸念されている。

一方、市では、R2 年度、都市在住の出身者で、関係人口として市内の地域づくりをサポートする意欲をもつ方を対象に「浜田応援団制度」をスタートした。まさに、地域づくりを担う「まちづくりセンター」と、「浜田応援団」、市内に立地する島根県立大学、R2 事業でつながった首都圏大学院生など、関係人口との協働の具体化が重要課題となっている。

(2) 島根県江津市

■地域の概要

江津市は平成 17 年、2 市町が合併して誕生した。県西部の日本海を望む位置にあり、東は大田市、西は浜田市、南は邑南町に隣接している。市域には中国地方最大の大河、江の川が貫流し、中心市街地はその下流域に形成されている。石州瓦の産地であることから、市内各所に美しい赤瓦の家並みの風景をみることができる。人口は 23,231 人 (令和 2 年)。

■課題

江津市は、人口減少に負けない活力あるまちづくりをめざし、まちづくりスローガン「GO▶GOTS U! 山陰の創造力特区へ。」のもと、都市部からの起業家誘致 (ビジネスプランコンテスト) やふるさとキャリア教育、市民大学 (GO▶つくる大学) など、『人づくり』『起業家誘致』に焦点をあてた取り組みを展開。移住*起業モデルを創出してきた。一方、H28 年から市民大学「GO▶つくる大学」を開設し、年間約 180 人の受講者が参加。オンライン講座などへの展開も進んでいますが、限られたスタッフや関係者で運営されており、当初からめざしてきた、関係人口増加や交流人口拡大といった目的の達成には至っていない。

また、同市の有福温泉では、エリアリノベーションが進行中であり、行政や事業者における取組の他、有志による活動も行われているが、これを推進するためにはより多様な企画や実践が求められている。

(3) 富山県魚津市

■地域の概要

魚津市は、富山県東部に位置する、人口 41,132 人（R3 年 3 月 1 日現在）であり、昭和 60 年以降人口減少が続く状況となっている。こうしたなか、「ともにつくる 未来につなぐ人と自然が輝くまち魚津」を将来都市像とする第 5 次魚津市総合計画において、関係人口の創出・拡大、市民との協働の推進を図ることを位置付けている。

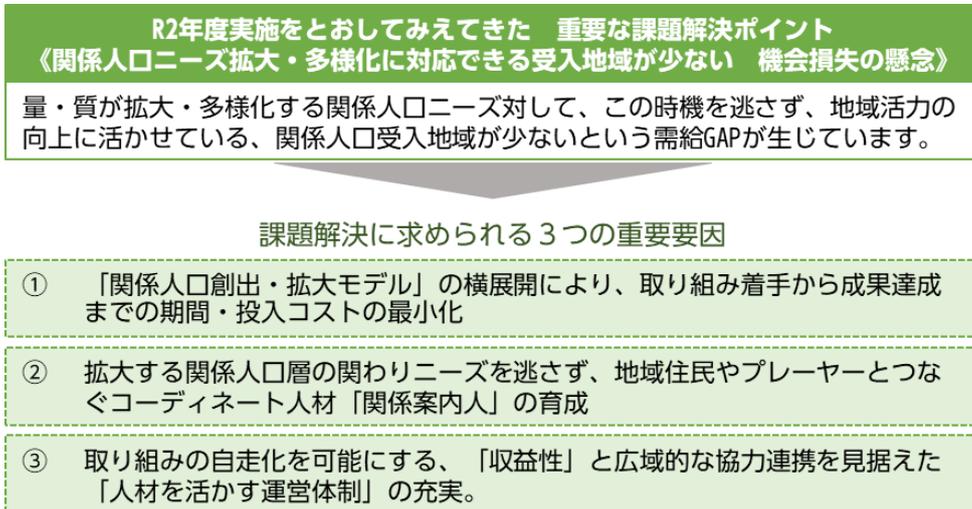
■地域の課題

魚津市は 13 の地域により構成され、固有の地域特性を活かしたまちづくりが進められている。その活動の指針となっているのが、各地域振興会を中心に地域住民の参加により将来像と目標をさだめ、具体的な取り組みをまとめた「まちづくり計画」で、この計画に基づき市民が主役となったまちづくりが進められている。また、富山大学と市が連携して実施してきた「魚津三太郎塾」では、企業と地域を担う若者を育成する人材育成に取り組んできた。こうした、「地域の思いをかたちにした将来像へのチャレンジ」が進む魚津市だが、地域によっては取り組みを推進する担い手確保や、地域プレイヤーの活動をサポートする多様スキル・経験・ネットワークを有する支援人材の充実が求められている。

2.2 関係人口創出・拡大に関わる取組みのビジョン・テーマ設定

(1) ビジョン設定の前提～R2 年度実施で見た重要な課題解決ポイント～《関係人口ニーズ拡大・多様化に対応可能地域が少ない*機会損失の懸念》

R2 年度の事業実施から、関係人口をめぐる以下の課題が見えてきた。



一方、実施した取り組みを通じて得た効果（図左）から、受入地域と関係人口の関係性（図右）記載の成功要因を整理することができた。

効果

浜田市 江津市

人・活動・地域のかかわりしろの見える化

地域と関係人口の関係性

- ・地域との接点ができる
- ・関係が芽生える

浜田市 江津市

コミュニティと関係人口が出会う・繋がる
ニーズ・シーズの共有、マッチング

- ・地域と関係人口が出会う・繋がる
- ・関わり方を具体的に描く、共有する

浜田市

地元住民視点での地域案内
メッセンジャーとしての役割の可視化

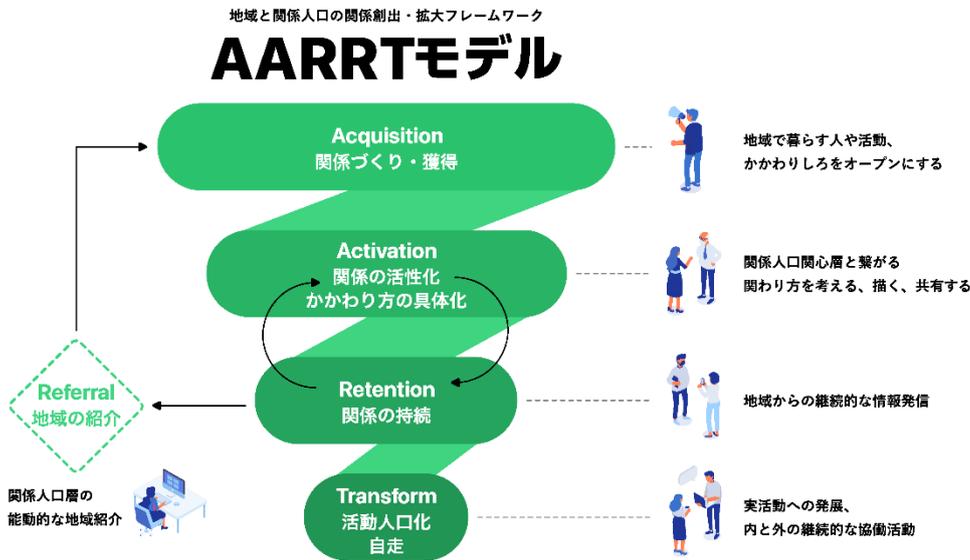
- ・地域側からの情報発信による関係の持続
- ・地域の認知拡大

浜田市 江津市

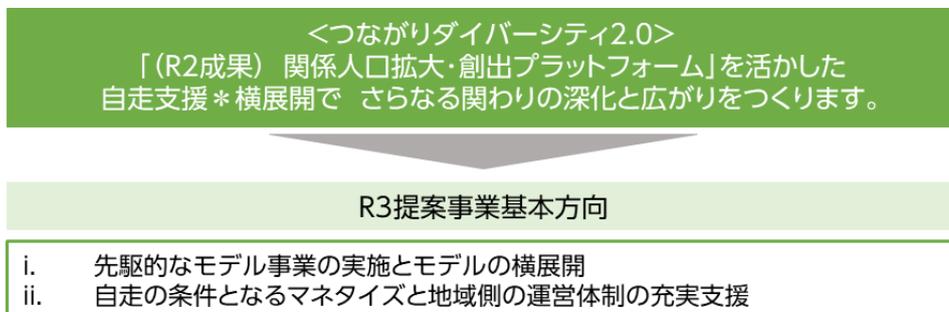
関係人口層からの繋がりアイデア提案

- ・アイデアのプロジェクト化・実行による、持続的な協働関係の構築

上記の「R2 事業実施により見えてきた課題と効果」から、将来の広域プラットフォーム化をめざすことから、下記図のような「関係人口の広がりと深まりを促すための取り組み体系仮説」として、【AARRTモデル】を設計した。



(2) ビジョン設定と事業の基本方向



本事業では、R2 年度に採択を受け実施した「しまね発つながりダイバーシティ」の成果とそこから見えてきた課題（上図参照）を踏まえ、【〈つながりダイバーシティ2.0〉「(R2成果) 関係人口拡大・創出プラットフォーム」を活かした自走支援*横展開で さらなる関わりの深化と広がりをつくります。】とした。

その上で、事業の基本方向を、「i 先駆的なモデル事業の実施とモデルの横展開」「ii. 自走の条件となるマネタイズと地域側の運営体制の充実支援」を設定し、事業成果の深耕と拡大を図ることをめざした。

i. 先駆的なモデル事業の実施とモデルの横展開

地域側	対象地域	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係人口創出の着手段階にある地域・団体を設定 ➤ 関係人口創出の着手段階にある地域・団体等 ➤ 日本海岸の広域連携による関係人口受容環境の一体的向上
	横展開型	<ul style="list-style-type: none"> ② 横展開モデルの設定 ➤ R2関係人口創出の仕組みを活用を図る横展開モデルを、島根県浜田市、富山県魚津市において実施します。
連携軸	3市連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の関わりシロを編集・コーディネートする人材の育成 ➤ 3市の関係人口づくりを担うコーディネート人材を、「広域的な学びあいと連携」を通じて育成する仕組みの構築
大都市側	既存集団	<ul style="list-style-type: none"> ① 都市関係人口コミュニティの連携 ➤ 2市（浜田市・魚津市）とのつながりを有している大都市側の既存コミュニティ（例：浜田応援団）との連携
	新規集団	<ul style="list-style-type: none"> ② 新たな関係人口層の掘り起こし ➤ かかわりシロチャンネル視聴者を対象とした、オンラインでのつながりイベントの開催による関係きっかけづくり

◎地域側

- ・ 関係人口創出の着手段階にある団体で、日本海岸の広域的な協力連携による関係人口受容環境の一体的向上をめざす視点に立った展開を図った。
- ・ R2 関係人口創出の仕組みの活用を図る横展開モデルを、島根県浜田市、富山県魚津市において展開した。

◎連携軸（3市連携）

- ・ 3市の関係人口づくりを担うコーディネート人材（関係案内人）の育成を実施した。

◎大都市側

- ・ 2市（浜田市・魚津市）とのつながりを有している大都市側の既存コミュニティ（例：浜田応援団）と連携して実施した。
- ・ チャンネル視聴者を対象とした、オンラインでのつながりイベントを開催し、地域とのきっかけづくりの機会とした。

ii. 自走の条件となるマネタイズと地域側の運営体制の充実支援

地域側	対象地域	① 関係人口から活動人口へと巻き込みを図る段階にある地域・団体を設定
	自走型	② 自走展開モデルの設定 ➤ 自走可能な活動段階に入った事業への収益モデルの創出支援を図る取り組みを、島根県江津市において実施します。
連携軸	3市連携	① 地域間広域連携による課題解決・人材協力の仕組み ➤ 3市の事業実施チームが、関係人口創出・拡大にかかる課題解決手法の共有、人材協力などで連携できる仕組みの構築
大都市側	既存集団	① 講座運営スタッフとしての参画 ➤ しまコトアカデミー修了生との連携・協働を深めます。 ➤ GO➤つくる大学でのオンライン講座の有料版実施の参画 ➤ 実施団体のサポートスタッフとしての参画 ② 提案した協働事業の実施 ➤ 地元住民等との小さな協働事業のスタートアップ

◎地域側

- ・ 関係人口を活動人口へと巻き込みを図る段階にある地域として、江津市有福温泉を設定。
- ・ 事業収益モデルの創出支援へ向けた取り組みを、島根県江津市において実施した。

◎連携軸（3市連携）

- ・ 3市の事業実施チームが、関係人口創出・拡大にかかる課題解決手法の共有、人材協力などで連携できる仕組みを検討した。

◎大都市側

- ・ しまコトアカデミー修了生との連携・協働を深めることにより、有福温泉エリアリノベーションへの参画など、実施団体のサポートスタッフとしての運営参画機会を拡充し、定着を図った。

◎事業実施団体と調査委員会による調査・検討体制

- ・ 調査委員会を設立し、客観性と汎用性を重視した検証提言を諮問した。
- ・ 関係人口創出と関係案内人育成における実施結果を検証した。
- ・ 事業実施結果を踏まえた、関係人口創出モデル仮説に基づく検証と、本事業で構築した仕組みのさらなる横展開を図るため、利用可能なコンテンツを体系的に整理した。

(3) 取り組みのテーマ

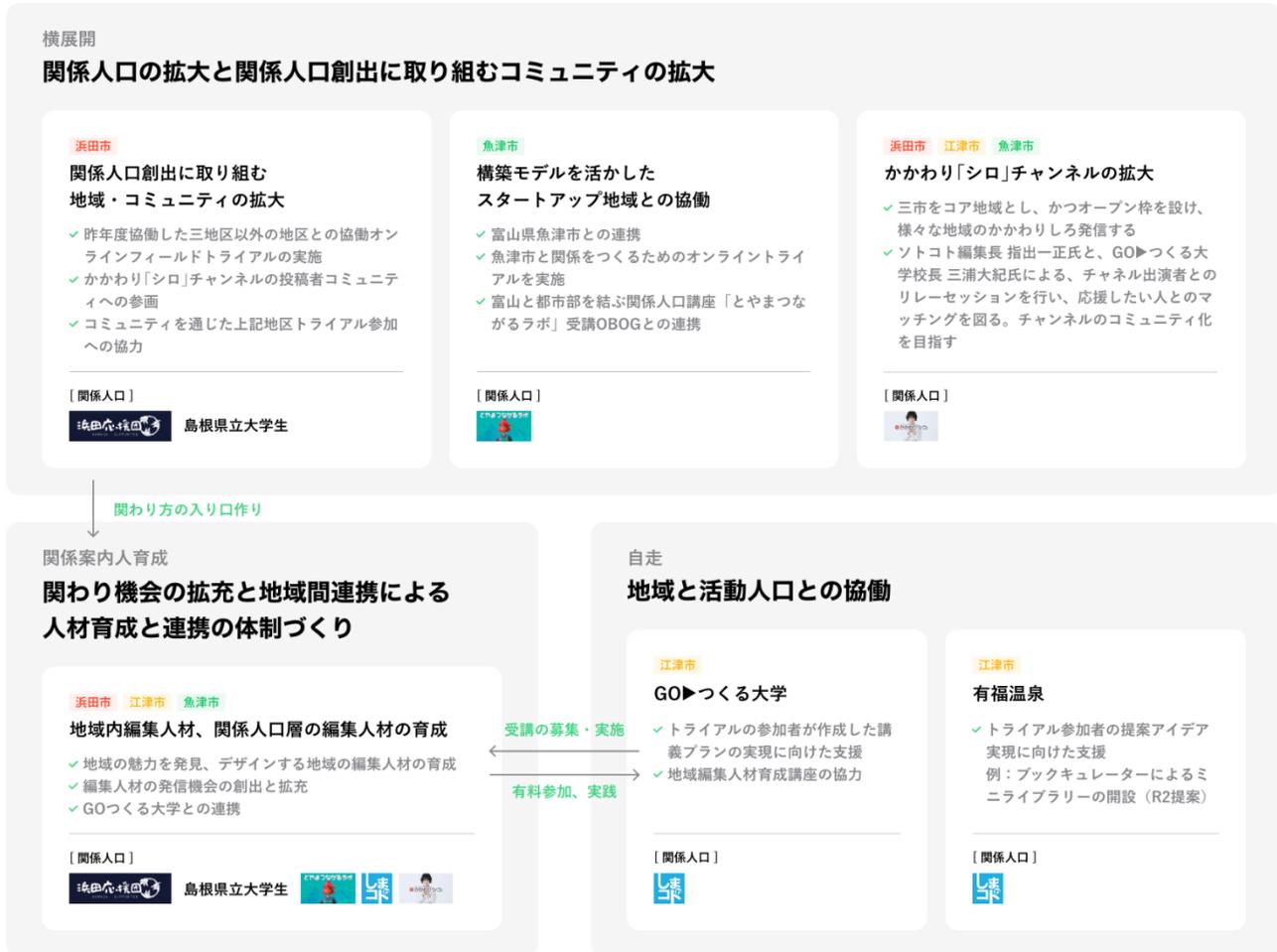
地域ニーズや関係人口施策に関する段階に応じた支援を重視するビジョンを踏まえ、以下のテーマに基づく支援内容を構成した。

<つながりダイバーシティ2.0>
自走支援*横展開支援による
多様性を受容するアクティブな関係人口創出プラットフォーム

3 モデル事業の取組内容

3.1 取組みの全体像・スキーム

(1) 取り組みの全体像



(2) 具体的な内容

① 《横展開 | 関係人口の拡大と関係人口創出に取り組むコミュニティの拡大》

ア) 島根県浜田市／関係人口創出に取り組む地域の拡大

浜田市の新たなコミュニティづくりの拠点として整備される「まちづくりセンター」を通じて、昨年度実施した3地区以外の黒沢地区と関係人口との協働トライアルを実施した。

* 主な展開内容

- かかわりシロの発見
- マッチング機会の提供
- 浜田市フィールド・トライアルの実施
- ・ 昨年度協働した三地区以外の地区として黒沢地区を選定。
- ・ 選定地域団体の「関係人口とのつながりニーズ」と「かかわりシロ（課題・地域特性・人）」の把握
- ・ 大都市側参加者を対象とする事前ワークショップ（参加目的に応じたかかわりシロニーズを把握）
- ・ 協働フィールド・トライアル（オンライン）の実施

- フィールドワーク実施後の振り返りワークショップ
- ・ 振り返りワークショップ開催（地元関係者による関係人口創出拡大ロードマップ作成の検討支援）

イ) 富山県魚津市／構築モデルを活かしたスタートアップ

魚津市で活動する地域プレイヤー・団体等との連携を通じて、地域と関係人口との協働トライアルを実施。魚津市内で活動するプレイヤーにメンターとしての指導、伴走役を依頼するとともに、同市地域協働課との連携を図り、本事業終了後も魚津市内の自走可能な体制づくりを目指した。

* 主な展開内容

- かかわりシロの発見
- マッチング機会の提供
- 魚津市フィールド・トライアルの実施
- ・ 市内プレイヤーを選定。
- ・ 選定先の「関係人口とのつながりニーズ」と「かかわりシロ（課題・地域特性・人）」の把握
- ・ 大都市側参加者を対象とする事前ワークショップ（参加目的に応じたかわりシロニーズを把握）
- ・ 協働フィールド・トライアル（オンライン）の実施
- ・ 成果を確保するための市内地域プレイヤーによるメンター活動の実施
- フィールドワーク実施後の振り返りワークショップ
- ・ 振り返りワークショップ開催（地元関係者による関係人口創出拡大ロードマップ作成の検討支援）

ウ) 3市（鳥根県江津市、浜田市、富山県魚津市）のかかわりシロの可視化

地域の魅力ある場所やコト、モノを素材に、さまざまな活動を展開している「地域びと」が、関係人口とのつながりを訴求する動画を紹介する「チャンネル（R2事業で開設）」を活かし、引き続き可視化するメディアとして活用した。

* 主な展開内容

- かかわりシロの可視化
- かかわり「シロ」チャンネルの発信
- オンライン・トークイベントの開催
- ・ かかわり「シロ」チャンネルのR2年動画出演者と動画MC（指出一正氏、三浦大紀氏）によるリレーセッション「オンラインイベント」の開催
- フィールド・トライアルの実施：浜田市、魚津市

② 《関係案内人育成》

ア) 地域内編集人材、関係人口層の編集人材の育成

地域の人＊関係人口をつなぎ、かかわりシロ発見と参画協働機会を地域で創出するコーディネーター人材の育成を図るため、関係案内人育成講座を開講した。

今年度テーマである「海流関係人口」を視野に、関係人口として広くネットワークを図り、多様な地域との関わりを可能にする「ツナギビト」としての育成を図る講座を実施した。

* 主な展開内容

- 持続可能なつながり方の検討：関係案内人育成講座（全4回）
- ・ 地域の魅力発見やつながりのコーディネーターに意欲をもつ層向けのオンライン講座として開講
- ・ 上記受講生による地域情報の発信機会の拡充（発信のための各自コンテンツ作成）
- 運営団体ネットワーク会議開催（1回）
- ・ 3市の実施団体をつなぎ知恵や経験を共有・学び合う機会として開催。

③ 《自走 | 地域と活動人口との協働》

ア) 鳥根県江津市（GO▶つくる大学）／関係人口がつくり運営する講義コンテンツの運営支援

取り組みが自走化し、持続可能な状態に近づくことへの支援を目的に、「事業の収益モデル化」と「運営体制の充実」を図ることをめざし、GO▶つくる大学に関係人口がつくる有料講義実施に向けた

支援を行った。

*** 主な展開内容**

● **持続可能なつながり方の検討**
「GO>つくる大学」講座実施支援

- ・ 令和2年度のプランを踏まえ、関係人口と共につくる講座運営に向けて現地での取り組みを学ぶオンライン講座を実施。

イ) 島根県江津市（有福温泉地域のプレイヤー）／関係人口と地元住民の協働事業プロデュース

自走化スタイルのひとつである、プレイヤーと関係人口の相対による協働事業の展開を促進するため、R2年の有福温泉地域オンライントライアルで提案のあった協働プランのうち、「有福ブックライブラリー」の実施を支援した。

*** 主な展開内容**

● **持続可能なつながり方の検討**
● **有福温泉協働プロジェクト実施支援**

- ・ R2「有福温泉トライアル」での提案プランをもとに協働プロジェクトをプロデュース。

④《関係人口プロジェクト創出プラットフォーム仮説の検証》

● **参加者・事業主体関係者の評価**

…参加者及び事業主体関係者アンケート

- ・ 参加後の満足度などの結果から効果を測定・検証

…メンターからの意見聴取

- ・ 伴走をプロセス、成果に対する可能性、課題などを収集

…実施地域からの振り返り意見交換に基づく整理

- ・ 事業実施後に実施地域との振り返り意見交換を行い、自走と横展開を重視した「実感できた成果」と「今後の改善点」を把握。

● **調査委員会による以下の検証・検討・提言**

《委員》若林宗男氏（「ワールドビジネスサテライト」初代キャスター・事業構想大学院大学客員教授）

《委員》指出一正氏（ソトコト編集長）

《委員》田中輝美氏（島根県立大学准教授）

《ゲスト》三浦大紀氏（Go>つくる大学校長）

《オブザーバー》*浜田市定住関係人口推進課 *江津市地域振興課（報告のみ）*魚津市地域協働課

3.2 期待される効果・KPI

(1) 浜田市事業において期待される効果

- 実施地域に対して、関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や可能性の発見・提言が得られること
 - ◇ 指標①：参加者による提案プランの件数
 - ◇ KPI：参加者と同数
 - ◇ 計測方法：提出プラン件数により把握
- 事業実施により、都市側の視点からみた地域のすがたを再確認し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを醸成すること
 - ◇ 指標：協働活動で活動が活性化したと考える関係者の満足度
 - ◇ KPI：関係者の80%以上
 - ◇ 関係団体アンケートにより把握
- 地域の課題解決にかかる活動についての「ジブンゴト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲

が高まること

- ◇ 指標：関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合
- ◇ KPI：関係者の80%以上
- ◇ 計測方法：関係者アンケートにより把握
- ◇ 次年度に継続して展開する取り組みの件数：3件以上

(2) 江津市事業において期待される効果

☆GO▶つくる大学

- 事業によりGO▶つくる大学の魅力化が図られること
 - ◇ 指標：事業により大学の魅力が向上したと考える関係者の割合
 - ◇ KPI：「向上した」と考えるGO▶つくる大学事務局の割合が80%以上
 - ◇ 計測方法：アンケート調査
 - ◇ 指標：受講生の講座満足度
 - ◇ KPI：満足と感じる受講生の割合が80%以上
 - ◇ 計測方法：アンケート調査
- GO▶つくる大学で実施する有料講座による収益の創出
 - ◇ 指標①：実施する有料によるオンライン講座数
 - ◇ KPI：2件
 - ◇ 計測方法：実施件数
 - ◇ 指標②：実施による売上げ
 - ◇ KPI：(設定単価×受講生数10名×講座数)
 - ◇ 計測方法：実施講座数の売上高
- GO▶つくる大学の受講者増加が図られ、全国からの参加も確保されること
 - ◇ 指標：講座参加者数
 - ◇ KPI：オンライン講座の視聴数
 - ◇ 計測方法：講座参加者の実測

☆有福温泉再生

- 有福温泉地域における関係人口と地元住民による具体的な協働事業の展開
 - ◇ 指標：協働事業の実施件数
 - ◇ KPI：1件
 - ◇ 計測方法：実施件数
 - ◇ 指標：協働により「地域づくりにとってよい効果を得た」と感じる地元関係者の割合
 - ◇ KPI：80%以上
 - ◇ 計測方法：アンケート調査

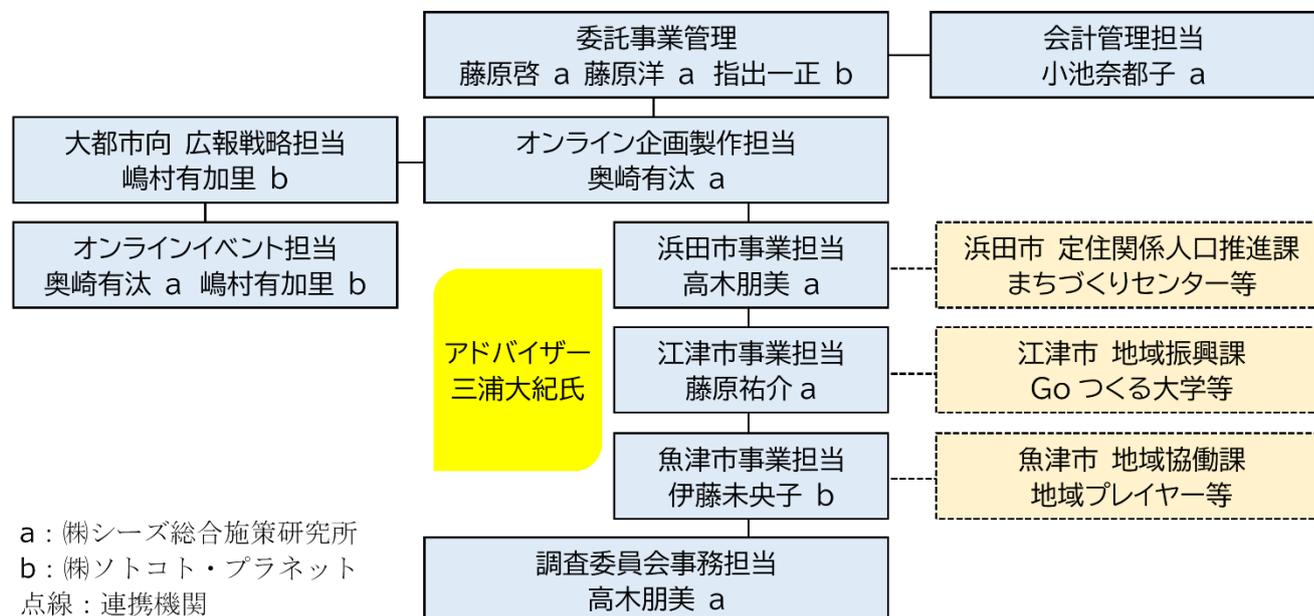
(3) 魚津市事業において期待される効果

- 関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や可能性の発見・提言が得られること
 - ◇ 指標①：参加者による提案プランの件数
 - ◇ KPI：参加者と同数
 - ◇ 計測方法：提出プラン件数により把握
- 事業実施により、都市側の視点からみた地域のすがたを再確認し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを醸成すること
 - ◇ 指標：協働活動で活動が活性化したと考える関係者の満足度
 - ◇ KPI：関係者の80%以上
 - ◇ 関係団体アンケートにより把握
- 地域の課題解決にかかる活動についての「ジブンゴト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲が高まること
 - ◇ 指標：関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合
 - ◇ KPI：関係者の80%以上
 - ◇ 計測方法：関係者アンケートにより把握

◇ 次年度に継続して展開する取り組みの件数：2件以上

4 事業実施に係る運営体制

4.1 事業実施体制



4.2 事業実施団体及び関係機関の役割

NO	名称	役割
1	(株)シーズ総合政策研究所 (6名) 1	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業の統括管理および会計管理（担当者は同社経理業務専任社員） 提案者間、連携先、アドバイザーなどとの連絡調整 浜田市、江津市との企画調整 オンラインコンテンツ企画製作及びオンラインイベントの企画運営 実施地域及び関係人口参加者における「つながりニーズ」把握及び企画反映 地域メンター調整 調査委員会事務
2	(株)ソトコト・プラネット (3名) (9月に(株)sotokoto online から社名変更)	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業管理及び事業企画の監修 魚津市との企画調整 関係人口層に向けた広報・募集活動 オンラインイベントの企画運営
4	事業実施主体 (まちづくりセンター等) (魚津市地域プレイヤー) (有福温泉地域プレイヤー)	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動におけるかかわりシロ（課題と特性）の可視化 つながりを求める関係人口層の人材像の明確化。 関係人口層のフィールド・トライアル（現地またはオンライン）の受入、参加 自走に向けたロードマップ検討への参加。
5	事業実施自治体 (浜田市・江津市・魚津市)	<ul style="list-style-type: none"> 事業主体との調整協力 フィールド・トライアル（現地またはオンライン）への受入、参加 調査委員会への参加 そのほか事業設計に関する助言等

5 事業実施内容

5.1 実施スケジュール

実施事項	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
(1) 地域との関わりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討																																		
1 実施計画作成・関係者協議				関係者協議・実施計画作成																														
2 かがわのリンクチャンネルの発信				企画調整			動画制作・公開																											
3 オンラインイベントの開催							企画調整・集客																											
4 浜田市：フィールドトライアル												8/26																						
5 魚津市：フィールドトライアル													事前WS 9/30	★	★	10/2 浜田トライアル									事前WS: 11/20	★	★	12/4 魚津トライアル						
(2) 地域との継続的なつながりを持つ機会・きっかけを創出する仕組みの検討																																		
6 浜田市・魚津市：振り返りワークショップ																																		
7 Go>>つくる大学講座実施支援(1回)				企画調整・企画会議																														
8 Go>>つくる大学講座継続検討																																	★ 継続検討	
9 有福温泉協働プロジェクト実施支援																												オンライン企画会議			事業実施			振り返り・継続検討
(3) 自立化・自定化の検討																																		
10 関係業内人育成講座(4回)																																		
11 運営団体ネットワーク会議(1回)																																		
(4) モデル事業としての成果検証等																																		
12 参加者及び事業主体関係者アンケート																																		
13 メンターからの意見聴取																																		
(5) 他地域への展開の可能性の検討																																		
14 実施地域からの振り返り意見交換に基づく整理																																		
15 調査委員会の開催 ※(3)(4)(5)共通																																		
(6) 報告書とりまとめ																																		
16 報告書とりまとめ																																		

- 対象地域を広げたこと、現地における状況への対応からスケジュールに遅れが生じたが、予定していた事業については、修正を加えながら期間内に実施することができた。

5.2 事業の広報・アプローチ

	浜田市	江津市	魚津市
ターゲット層	フィールド・トライアル選 定地域に関心のある「浜田 応援団」会員を中心とした 層。	すでに関係人口や当該地 域への理解を有する「しま コトアカデミーOBOG」。	フィールド・トライアル選 定地域や関係人口に関心 のある層。
広報方法・アプ ローチ方法	当該地区のまちづくりセ ンター及び浜田市役所担 当課（浜田応援団）が窓口 となり、チラシの郵送、電 子メールでの案内により 参加を募集。	2012年にスタートした「し まコトアカデミー」では、 300人を超えるOBOGによ るコミュニティが形成さ れており、SNSにより参加 を呼び掛けた。 また、本事業専用開設し たSNS（Facebook）から も広報を行った。 双方のSNSは弊社が事務 局となり運用している。 また、「しまコトアカデ ミーOBOG」が参加するイ ベントでの周知を行った。	ローカルマガジン「ソトコ ト」でのオンライン記事や 同SNS（Facebook）にて 参加者を募集。 その他、富山県での関係 人口講座の受講者層へSNS を通して呼び掛けた。

当初想定していた成果と実際の成果	当該地域から特に出身者とのつながりを深めたいとの希望があったため、出身者の「つながり直し」という効果があった。	地域はもとより、さらにプロジェクトのテーマに共感する層、知識やスキルを有する層からの参加が多かった。	地域への関心に加え、「関係人口」に関心の高い層からのアプローチが見られた。
効果的だったアプローチ方法	浜田市において、「浜田応援団」への登録者へ広報したため、同市への関心層へダイレクトにアプローチできた。	「しまこトアカデミーOBOG」が参加するイベントでは、取組みの熱量が伝わりやすく、効果的であった。	SNS を通じた関係人口関心層への呼びかけが効果的であった。

5.3 活動内容① 動画チャンネルの企画・運用

浜田市、江津市、魚津市で活動する個人やグループの「かかわりしろ」を発信する YouTube 動画を制作・運用した。

地域の魅力を、「ごうちゃん」こと雑誌「ソトコト」編集長・指出一正氏と、「はまちゃん」こと Go▶ つくる大学校長・三浦大紀氏とが繰り広げるトークにより、その魅力をゆるく楽しく深堀する番組を、昨年度に引き続き制作した。

都市部の関心層に「かかわってみたい」と思ってもらえると同時に、地域のプレイヤー層が魅力を再発見する機会となるよう取り組んだ。

制作番組一覧
①食を軸にした場づくり（石川正史さん：黒沢まちづくり委員会 副会長）
②高齢者への配食サービス（和田アミエさん：古和の里大国屋オーナー）
③伝統工芸品原材料生産（野上省三さん：トロアオイ生産者）
④米生産（串崎智子さん：黒沢米農家）
⑤有福温泉リノベーション（小塚光倫さん・葉柴聖さん：有福スタイル）
⑥有福ブックテーブル（永原真幸さん：関係人口）

5.4 活動内容② オンライントークイベント

名称	かかわりしろ研究所
日時	2021年8月26日（木）19:00～21:00
会場	オンライン
出演	指出一正氏、三浦大紀氏、南部歩美氏、小塚光倫氏、小川敦氏
参加者	約30人
事務局	㈱sotokoto online／㈱シーズ総合政策研究所
概要	地域のかかわりしろを楽しく発信する YouTube チャンネル「かかわりしろ」チャンネルの魅力や地域にとっての効果語り、当チャンネルの普及とかかわる楽しさを広く伝えることを目的に、オンライントークイベントを開催した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
19:00	オープニング	事務局
19:15	シロチャン名場面・おもしろ名言 振り返りパート	指出一正氏（「ソトコト」編集長） 三浦大紀氏（Go▶つくる大学 校長） 奥崎有汰（MC：㈱シーズ総合政策研究所）
20:00	休憩	
20:05	集まれシロチャン PEAPLE	南部歩美氏（藍染め屋 aiya）

		小堺光倫氏（有福スタイル） 小川敦氏（浜田市定住関係人口推進課）
20:55	エンディング	
21:00	終了	

5.5 活動内容③ 浜田市オンラインフィールドトライアル事前ワークショップ

名称	浜田市オンライントライアル事前ワークショップ	
日時	令和3年9月30日（木）19:00～20:00	
会場	オンライン	
参加者	参加申込者	
事務局	㈱シーズ総合政策研究所	
概要	フィールドトライアルに向けて、当日のポイントを説明して参加者へ事前の情報を提供した。また、参加者の関心ごとを話していただき、トライアルに向けたポイントを把握した。	

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
19:00	オリエンテーション ツアーの目的・概要の説明	事務局
19:20	Q&A、トライアルへの期待等	参加者・事務局
19:50	当日の確認事項	事務局
20:00	終了	

5.6 活動内容④ 浜田市オンラインフィールドトライアル

名称	黒沢地区を元気にするオンラインフィールドツアー	
日時	令和3年10月2日（土）13:00～15:10	
会場	オンライン（関係人口）／黒沢地区より配信（地域プレイヤー）	
現地参加者	黒沢地区のみなさん／黒沢まちづくりセンター／浜田市定住関係人口推進課、三隅支所	
参加者	10名	
事務局	㈱シーズ総合政策研究所	
概要	黒沢地区で活動する地域プレイヤーと交流し、地域の日常を「人」を通してめぐるオンラインツアーにより、黒沢地区との関わりを見つけていくことを目的として実施した。	

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
13:00	オリエンテーション	事務局
13:10	黒沢地区探訪 ーかっぱランド夏祭り／大平桜／御部ダム・ダム湖／トロロアオイ畑／稲刈り	黒沢地区の皆さん
13:50	休憩	
14:00	コワ温泉の紹介	黒沢地区の皆さん
14:05	お土産「黒沢BOX」紹介	黒沢地区の皆さん
14:25	黒沢の活動紹介	黒沢地区の皆さん
14:40	交流の時間	黒沢地区の皆さん×参加者
15:10	終了	

5.7 活動内容⑤ 魚津市オンラインフィールドトライアル（第1回）

名称	うおづつながるスクール
日時	令和3年11月20日（土）13:00～16:00
会場	オンライン
出演	魚津市の皆さん／魚津市地域協働課
参加者	7名
事務局	㈱ソトコト・プラネット
概要	魚津市の概要や、地域プレイヤーから魚津で活動することや暮らすことの魅力を発信し、現地フィールドトライアル（オンライン）へ向けての事前情報を学習してそれぞれの視点を持つことを目的に実施した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
13:00	講座スタート・概要説明	事務局
13:15	魚津市の説明・特徴の共有	魚津市役所地域協働課
13:45	関係人口の説明	事務局
14:00	休憩	
14:10	中央通り商店街の取組みについて	大野聡一さん（有限会社大野商店）
14:40	魚津での暮らし方について	南部歩美さん（藍染屋 aiya）
15:10	休憩	
15:20	ワークショップ「わたしと魚津の接点を探そう」	参加者・事務局
15:50	まとめ・次回案内・アンケート	事務局
16:00	終了	

5.8 活動内容⑥ 魚津市オンラインフィールドトライアル（第2回）

名称	うおづつながるスクール
日時	令和3年12月4日（土）13:00～17:00
会場	オンライン
出演	魚津市の皆さん
参加者	9名
事務局	㈱ソトコト・プラネット
概要	魚津市での地域プレイヤーの活動拠点とプレイヤーを訪ね、オンラインで交流することにより、自分なりのかかわり方を見出すことを目的にフィールドトライアルを実施した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
13:00	前回の振り返り・本日の流れ	事務局
13:20	フィールドワーク ーヤギの杜／宮本みそ店／ひえばた園	魚津市地域プレイヤーの皆さん
14:20	休憩	
14:30	フィールドワーク ータナノナカミセ／藤吉／MCR STORE／ tete studio works	魚津市地域プレイヤーの皆さん
15:50	休憩	
16:00	グループワーク	参加者・事務局
16:40	まとめ・アンケート	事務局
17:00	終了	

5.9 活動内容⑦ Go▶つくる大学講座実施支援

名称	有福ライブラリープロジェクト オンラインイベント
日時	令和4年2月17日(木) 19:00~21:30
会場	オンライン
出演	永原真幸氏、小堺光倫氏、葉柴聖氏、三浦大紀氏、佐々木文氏、しまコトアカデミーOBOG、奥崎有汰
参加者	15名
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	有福温泉エリアでの関係人口と地域プレイヤーとの活動を学び、関係人口と協働で地域活動を実践している事例に学び、関係人口から活動人口への新たな展開を考えていくことを目的として実施した。

【プログラム】

開始時間	プログラム	出演
19:00	オープニング	事務局
19:10	有福プロジェクトの概要	小堺光倫氏、葉柴聖氏、永原真幸氏、奥崎有汰
19:25	有福スタイル展開レポート	小堺光倫氏、葉柴聖氏
19:35	関係人口協働プロジェクト ープロジェクト・ドキュメント紹介	小堺光倫氏、葉柴聖氏、永原真幸氏
19:50	休憩	
20:00	関係人口協働プロジェクト ートークセッション「有福温泉で読みたい ARIFUKU BOOK TABLE」	三浦大紀氏、小堺光倫氏、葉柴聖氏、佐々木文氏、永原真幸氏、しまコトアカデミーOBOG
21:10	参加者からのQ&A	事務局
21:20	終了	

5.10 活動内容⑧ 有福温泉協働プロジェクト実施支援

名称	有福温泉ライブラリープロジェクト
日時	令和3年12月~令和4年2月
会場	オンライン/有福温泉ブックカフェ(リノベーション中)
参加者	(地域プレイヤー:現地) 葉柴聖氏 (地域プレイヤー:地域外) 小堺光倫氏 (関係人口) しまコトアカデミーOBOG
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	令和2年度に実施した「有福温泉フィールドトライアル」において、提案されたプランの一つを、地域プレイヤーと関係人口とで協働実施。現在リノベーション中の「有福ブックカフェ」において、「有福スタイル」を過ごすブックコーナーを設置。コンセプト設定から書籍の寄贈・選定、書籍紹介ポップの制作、書籍の展示等を関係人口と地域プレイヤーとの協働で実施。

5.11 活動内容⑨ 運営団体ネットワーク会議

名称	運営団体ネットワーク会議/フィールドトライアル振り返りワークショップ
日時	令和4年2月24日(または25日)
会場	オンライン
参加者	浜田市黒沢地区の皆さん、黒沢まちづくりセンター、浜田市定住関係人口推進課、

	魚津市地域プレイヤーの皆さん、魚津市地域協働課
事務局	(株)シーズ総合政策研究所、(株)ソトコト・プラネット
概要	各地域でのトライアルを振り返り、それぞれの経験を共有し、今後の関係人口創出・拡大に向けて互いに学びあう機会とすることを目的に開催した。

5.12 活動内容⑩ 関係案内人育成講座（全4回）

名称	ツナギビト講座（第1回：地域のツナギビトから学ぶ）
日時	令和4年1月25日（火）19:30～21:00
会場	オンライン
ゲスト	桑谷猛氏
参加者	7名
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	「ツナギビトの活動から、意義ややりがい学ぶ」「ツナギビトのサポートで地域内外のひとがつながった事例を学び、自分にとっての共感ポイントを発見する。」ことを目的に、ゲストレクチャーとワークを行った。

名称	ツナギビト講座（第2回：地域の編集から考えるツナギ方）
日時	令和4年2月1日（火）19:30～21:00
会場	オンライン
ゲスト	三浦類氏
参加者	7名
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	「各自の妄想ツナガリ地域（受講生各自が、ツナガリビト活動をしてみたいと思う地域）を仮設定。」「妄想ツナガリ地域での私なりのツナギビト活動イメージを描いてみる。」ことを目的に、ゲストレクチャーとワークを実施した。

名称	ツナギビト講座（第3回：ステートメントを発表する）
日時	令和4年2月8日（火）19:30～21:00
会場	オンライン
ゲスト	若林宗男氏、指出一正氏、田中輝美氏、三浦大紀氏
参加者	9名
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	これまでの2回のセッションを踏まえた、現時点での受講生それぞれの「ツナギビト・ステートメント」を発表し、各受講生へアドバイザーからコメントを贈った。

名称	ツナギビト講座（第4回：シロチャン・アイデアソン）
日時	令和4年2月11日（金・祝）10:00～12:00
会場	オンライン
参加者	9名
事務局	(株)シーズ総合政策研究所
概要	第3回で発表した「ステートメント」をもとに、YouTube番組「かかわりシロチャンネル」を使った、受講生の推し地域のプレイヤー紹介動画の展開を構成するワークを行った。

5.13 活動内容⑪ 調査委員会の開催

名称	第1回調査委員会
日時	令和3年5月31日(月) 14:00~16:00
会場	オンライン
参加者	委員長：若林宗男氏(事業構想大学大学院客員教授) 委員：指出一正氏(「ソトコト」編集長)、田中輝美氏(ローカルジャーナリスト)、 オブザーバー：三浦大紀氏(Go>つくる大学校長)、川合佳香子氏・平野裕人氏・小川敦氏(浜田市定住関係人口推進課)、小林孝仁氏・関口晶子氏(魚津市地域協働課)
事務局	嶋村有加里(株sotokoto online)、藤原啓・奥崎有汰・高木朋美(株シーズ総合政策研究所)
概要	昨年度の事業成果を踏まえた今年度の事業概要及び対象地域について情報を共有した。その上で、協働地域で期待することや、かかわりしろを開き続けることについて、また関係案内人育成講座について、それぞれ委員の専門的立場から知見を述べていただいた。

名称	第2回調査委員会
日時	令和4年2月8日(火) 19:30~21:00
会場	オンライン
参加者	委員長：若林宗男氏(事業構想大学大学院客員教授) 委員：指出一正氏(「ソトコト」編集長)、田中輝美氏(ローカルジャーナリスト)、 オブザーバー：三浦大紀氏(Go>つくる大学校長)
事務局	奥崎有汰・高木朋美(株シーズ総合政策研究所)
概要	今年度実施した事業を踏まえて、「関係案内応援コミュニティ(プラットフォーム)」の在り方をめぐり、関係案内人(ツナギビト)、関係案内人とつながることで地域づくりを盛り上げたい地域の人・機関や、関係案内人とつながることで活動意欲を持つ関係人口に期待することについて意見交換し、専門家の知見を得た。

6 モデル事業としての成果検証

6.1 事業成果（目標達成状況）

事業の目標・達成状況

	目標 (定量目標の場合は目標数値も記載)	達成状況
1	<p>《浜田市》実施地域に対して、関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や可能性の発見・提言が得られること。</p> <p>【指標・KPI】参加者による提案プランの件数が参加者と同数。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドトライアルにおいて、10名の参加者があり、5件の関わりプランが出された。 ・ 今回のフィールドトライアルでは、提言には至らなかったが出身者などの「つながり直し」も見出されたことにより、今後の可能性の発見や提言が期待される。
2	<p>《浜田市》事業実施により、都市側の視点からみた地域のすがたを再確認し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを醸成すること</p> <p>【指標・KPI】協働活動で活動が活性化したと考える関係者の満足度が関係者の80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元関係者アンケートにおいて、「今回の取り組みが自身の地域活動への意欲が高まった」という回答が72.7%。
3	<p>《浜田市》地域の課題解決にかかる活動についての「ジブンゴト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲が高まること</p> <p>【指標・KPI】関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合が関係者の80%以上。</p> <p>【指標・KPI】次年度に継続して展開する取り組みの件数が3件以上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元関係者アンケートにおいて、「今後も継続した協働活動を希望する」という回答が90.9%。 ・ 次年度以降に継続して展開する取り組み件数は3件。
4	<p>《江津市》事業によりGo▶つくる大学の魅力化が図られること。</p> <p>【指標・KPI】事業により大学の魅力が向上したと考える関係者の割合。(大学事務局)の割合が80%以上。</p> <p>【指標・KPI】満足と感じる受講生の割合が80%以上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Go▶つくる大学が発信・応援する場として関係人口との協働を伝えるイベントの実施は、同大学の魅力向上にも役立つと思う地元関係者の割合は100%。 ・ 満足と回答した受講生は90%。
5	<p>《江津市》Go▶つくる大学で実施する有料講座による収益の創出。</p> <p>【指標・KPI】実施する有料によるオンライン講座数が2件。</p> <p>【指標・KPI】実施による売上げ(設定単価×受講</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (本委託事業においては、収益事業を実施することは難しいため、有料講座の実施については、本事業を介さずに別途、Go

	生数 10 名×講座数)	▶つくる大学と関係人口とで個別に実施。)
6	《江津市》GO▶つくる大学の受講者増加が図られ、全国からの参加も確保されること 【指標・KPI】オンライン講座の視聴者数	・ オンライン講座の視聴者数は 15 名。(島根県、首都圏、関西圏より参加)
7	《江津市》有福温泉地域における関係人口と地元住民による具体的な協働事業の展開 【指標・KPI】協働事業の実施件数が 1 件。 【指標・KPI】協働により「地域づくりにとってよい効果を得た」と感じる地元関係者の割合が 80% 以上	・ 協働事業 1 件を実施。 ・ 協働により「地域づくりにとってよい効果を得た」と感じた地元関係者は 100%。
8	《魚津市》関係人口の参画により、外からの視点で地域課題や解決方策、地域の魅力や可能性の発見・提言が得られること 【指標・KPI】参加者による提案プランの件数が参加者と同数	・ フィールドトライアルで 9 件のプランが提出された。
9	《魚津市》事業実施により、都市側の視点からみた地域のすがたを再確認し、地元住民が暮らしや仕事への愛着や誇りを醸成すること 【指標・KPI】協働活動で活動が活性化したと考える関係者の満足度が 80% 以上。	・ 協働活動で地域が活性化したと考える関係者の満足度は 75%。
10	《魚津市》地域の課題解決にかかる活動についての「ジブンゴト意識」が高まり、関係人口との協働への意欲が高まること 【指標・KPI】関係人口との協働活動を継続したいと考える関係者の割合。 【指標・KPI】次年度に継続して展開する取り組みの件数が 2 件以上	・ 関係人口との協働を通して自身の活動への意欲が高まったと回答した関係者は 100%。 ・ 今後継続して展開する取り組み件数は 2 件。

6.2 事業成果（関係人口の地域とのかかわり方）

(1) かかわりシロチャンネル

- ・ 広く関係人口層へ向けた「かかわりシロチャンネル」の発信により、地域と関わる面白さや関わり方を提示することができた。
- ・ 「かかわりシロチャンネル」をテーマとしたオンラインイベントを開催したことにより、最初のアプローチである「かかわりシロチャンネル」から、どのような展開への可能性があるのかを関係人口層へ可視化して提示することができた。

(2) スタートアップ型トライアル（横展開）

- ・ 島根県浜田市では令和 2 年度からの横展開によるオンライントライアルであったが、市が運用す

る「浜田応援団」や出身者を対象としたトライアルであったことから、昨年度とは異なる層の関係人口層へアプローチすることができた。

- オンラインによる実施であったが、出身者の参加者からは地域課題を含めたリアルな地域に触れていただき、「思い出」や「懐かしい」地域から「かかわり・応援する」地域への意識を醸成することができた。
- 富山県魚津市では初めてのフィールドトライアルであった。「若い世代の活動を知ることができた」「富山との新しいつながりができた」という意見が寄せられ、スタートアップ型として「人」を介したつながりのきっかけづくりとなった。

(3) ブラッシュアップ型トライアル（自立・自走）

- 有福温泉プロジェクトでは、関係人口による昨年度のプランを実践へと進めたことにより、「関わり方の可視化」から「関わりの持続」さらには「活動人口へ」という深化のプロセスを実証することができた。（弊社提案「AARRTモデル」）
- 有福温泉プロジェクトは完全オンラインによる実施であったが、関係人口の有する「知識」「スキル」「意欲」を多いに活かし、関係人口ならではの手法で地域における活動を活発にし、魅力を高めることができた。

(4) 関係案内人（ツナギビト）育成

- ツナギビト講座として、関係人口育成を実施したことにより、個人と地域とが1対1ではなく、より多様につながるスキルを関係人口が習得することができた。
- ツナギビト講座を修了することで、関係人口と地域とをつなぐプラットフォームとしての役割が期待されることから、地域と関係人口との良好な橋渡しの促進が期待される。

6.3 事業成果（その他）

(1) ナレッジの共有

- 関係人口創出のスタートアップ型トライアルにおいて、島根県浜田市では一つの地区に限定したフィールドトライアル、一方の富山県魚津市ではより広い市域で活躍するプレイヤーとの多様な出合いを試みた。横展開において多様な試みを実施したことから、関係人口と地域とをつなぐ多様な経験を得、その知見を両地域が相互に共有することができた。
- ブラッシュアップ型モデルの事例をスタートアップ型地域に共有したことで、次の段階に進むためのナレッジや視点を共有することができた。

(2) 関わりプロセスの網羅的な実施

- 本事業を通して、「かかわりシロチャンネル」をはじめとする最初の接点の段階から①関係人口への働きかけ、②地域側からの「かかわりしろ」の発信、次に各トライアルによる③相互交流と関わりの可視化、④関わりの継続、⑤関係人口と地域との協働活動へと関係人口と地域とが関わりを深化させるプロセスを試みるすることができた。

(3) 関係人口層の次なるニーズ

- 弊社では、これまで「しまこトアカデミー」や「とやまつながるラボ」等、関係人口創出に取り組んできた。本事業を通して、講座修了生は、講座を通して見えた自分なりの地域とのつながりをさらに深めたい、また深めるためにどうすれば良いか分からないというニーズを抱えていることが分かった。
- 関係人口へと変化していく活動人口へ変化していく層として、関係人口講座修了生は大きな可能

性を秘めている。ツナギビト講座のような、関係人口としての関わり方を深める機会や、関係案内人へと成長する場合は、事業性が高いと考えられる。

(4) オンラインを手法とした可能性の広がり

- コロナ禍が続く中、地域での活動も関係人口との対面での交流も思うように進まない中、オンラインにおいて協働活動が可能であり、地域活動へ貢献することができた。
- オンライントライアルを継続して実施し、運営側におけるチーム編成やプログラム企画・実施等の面でも経験を積むことができ、よりスムーズに関係人口へ地域の魅力を伝え、相互理解を深めるスキルを高めることができた。

6.4 本年度の課題と対応

- 新型コロナウイルス感染拡大が続き、対面での交流が難しい中、多くの事業をオンラインで実施した。時間と距離の制約を受けないオンラインによる実施は非常に効果的であるが、対面での交流意欲は高まっており、今後取組んでいく必要がある。

6.5 今後の事業のあり方

(1) かかわりシロチャンネル

- 地域へのかかわり視点を継続して発信していく。また、多様なナビゲーターによる関わりしらの提示も検討する。
- YouTube「かかわりシロチャンネル」へは現在は事務局からのみの投稿だが、今後は地域や個人からの投稿も可能にし、より関係人口と地域の関心を広げていく。

(2) スタートアップ型トライアル（横展開）

- 関係人口づくりに取り組んだスタートアップ型の地域では、今後は関係の継続へと関わり方を深化させていくことが重要である。相互の情報交流や関係案内所機能の開設など、関係を深化させるフォローアップに取り組んでいく。

(3) ブラッシュアップ型トライアル（自立・自走）

- 有福温泉において「有福ライブラリープロジェクト」へ着手した。今後は「有福カフェ&ブックテーブル」が一つの関係案内機能を果たし、より関係をエリアへ広げ、継続的な活動を支援していく。
- Go>つくる大学については、すでに自走への動きも見られることから、事務局のニーズに応じた支援を行っていく。

(4) 関係案内人（ツナギビト）育成

- 関係案内人（ツナギビト）は、地域側においても関係人口側においても今後大きな役割が期待されることが明らかになった。関係人口における関係案内人と地域における関係案内人の双方をつなぐ関係案内人のプラットフォームとして、中間支援組織としての役割を充実していきたい。

7 自立化・自走化の検討

7.1 中間支援団体の責任範囲

- 本事業では、地域と関係人口の協働プロジェクト支援を実施した。双方の繋がりニーズの確認と共有、進行管理、寄贈サポート、クリエイティブ面のサポートなどを事務局が行い、チーム活動の促進、プロジェクトのクオリティ担保を担った。地域と関係人口がいるだけでは、繋がりや動きが生まれづらい。間に入り両者を円滑に動かし、かつ満足度の高い関係性や活動へと発展させるために中間支援団体の役割や責任範囲があると考えられる。

7.2 ツナギビト講座の有料化

- ツナギビト講座の実施を通じて、関係人口層の次のニーズが顕在化した。またそのニーズを解決するための手法として、ツナギビト講座が有効であることが示唆された。今回は全てオンラインで実施をしたが、現地ツアーなども取り入れることで、マネタイズの可能性が出てくる。また、地域外の関係人口だけではなく、地域内関係人口も受講対象にすることで、リーチできる層が広がっていく。

7.3 地域人材、資源の可視化とコンテンツ化

- 黒沢地区トライアルでは、黒沢 BOX という地域住民が手がけた食をパッケージにして参加者へ届けた。地域関係者から「地域の資源や人の魅力の整理ができたことで、黒沢 BOX が作れた」とコメントいただいた。このように地域人材や資源の魅力を再編集することで、新たなコンテンツが生まれる可能性がある。地域が主体となり、魅力の編集やコンテンツ作成、発信を行うことは、関係人口創出活動の自立・自走に繋がる。

8 他地域への横展開の可能性の検討

8.1 AARRT モデルによる知見・実績の蓄積と展開

- 地域と関係人口の関係性を捉えるモデルとして、AARRT モデルを提唱した。本事業で得られた知見をもとに、各フェーズで実施すべきアクションやフェーズを担う人材、フェーズを深化させていく要因などを整理・蓄積し、横展開が可能になるように整備していく。

8.2 つながり継続、進展する仕掛けづくり

- スタートアップ型の次の段階として、構築できた関係をゆるく継続させられる仕掛け、またそこまで考慮した上での事業スタートが必要であることが分かった。継続の方法として、リアル/オンライン関係案内所(SNS グループやサロンなど)、ツナギビト、かかわりシロチャンネルといったメディア、まちづくりセンター(公的機関)の参入など多角的な視点や価値軸で発信し、地域が時々動いていることが見える、仕掛けづくりが必要である。

8.3 地域と関係人口の協働スタイルの横展開

- 今回実施した【ARIFUKUBOOK TABLE】のように、関係人口の関わりを深化させたり、協働スタイルを促す手法を横展開し、地域の価値を大きくしていくことが必要である。事務局を含めたチームづくりや、地域と関係人口双方のリテラシー(関わりしるへの理解やニーズ把握)向上など、様々な要因が考えられるため、それらを整理し、横展開へと繋げていきたい。